

図3 認知尺度得点の平均値の差、効力感尺度得点の平均値の差

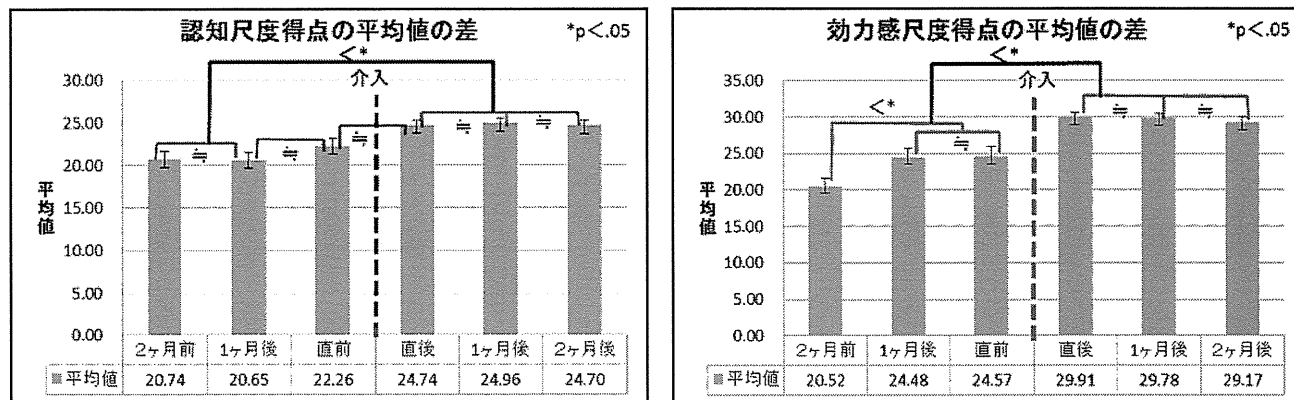


図4 直近1ヶ月のUAI回数総計  
(介入前リスクあり群10名)

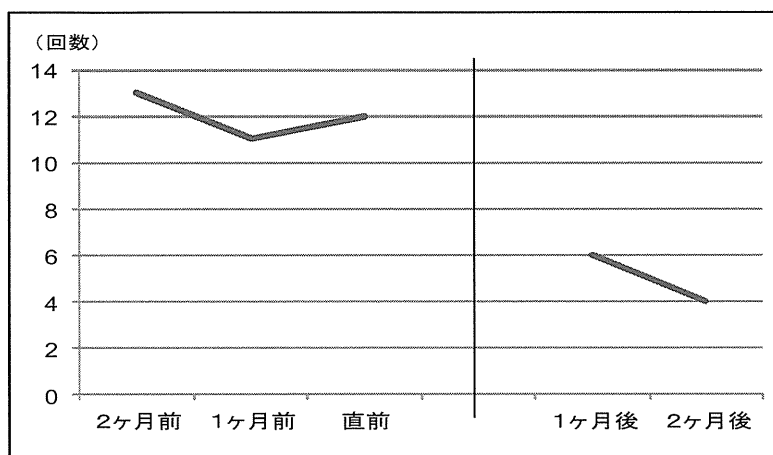


表4 直近1ヶ月のUAI回数 (介入前リスクあり群10名)

参加者	2ヶ月前	1ヶ月前	直前	1ヶ月後	2ヶ月後
No. 1	2	3	1	0	0
No. 2	1	0	1	0	0
No. 3	2	0	1	0	0
No. 4	1	0	0	0	0
No. 5	1	2	1	0	0
No. 6	1	2	2	1	1
No. 7	2	1	2	0	1
No. 8	0	1	0	0	0
No. 9	1	0	0	0	0
No. 10	2	2	4	5	3
計	13	11	12	6	4

表2 ヒアリング分析結果（カテゴリー一覧）

(1) 経験的な方法論	(2) 予防の阻害要因	(3) 行動変容を促すもの	(4) 介入プログラム参加者は何から満足を得るか	(5) スタッフの動機づけを支えるもの	(6) 活動の限界や困難
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 安全感</li> <li>2 関係性</li> <li>3 さりげなさ、楽しさ</li> <li>4 情報提供の工夫</li> <li>5 相手の主体性の尊重</li> <li>6 個別性に沿うこと</li> <li>7 スタッフ自身の関心やモチベーションの活用</li> <li>8 巻き込んでいくこと</li> <li>9 自己表出の促し</li> <li>10 振り返りの促し</li> <li>11 介入の限界への配慮</li> <li>12 継続</li> <li>13 健康増進の視点</li> <li>14 陽性者も含めた予防</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 疾患についてオープンに話すことの困難</li> <li>2 コンドーム規範への反動</li> <li>3 リアリティを伴った認識の不足</li> <li>4 関心の優先順位の低さ</li> <li>5 建前と行動の乖離</li> <li>6 棚上げ</li> <li>7 ネゴシエーションスキルの不足</li> <li>8 セックス場面の閉鎖性</li> <li>9 セックス場面での自己コントロールの困難さ</li> <li>10 メンタルヘルスの悪化</li> <li>11 根本的な課題（セクシュアリティや生き方など）とそれに対する支援の不足</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 具体的な知識</li> <li>2 陽性者についてのリアリティのある認識</li> <li>3 行動の自己決定の瞬間に他者と共有した良いイメージが頭に浮かぶこと</li> <li>4 行動の自己決定の瞬間にリスクが頭に浮かぶこと</li> <li>5 揺るがないセックスダンスを持つこと</li> <li>6 自己への振り返り</li> <li>7 体験を他者と共有し共感しあう経験</li> <li>8 新しい対処法の獲得</li> <li>9 HIVに対する恐怖心</li> <li>10 介入の際の臨場感</li> <li>11 問いかけに答えようとする</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インパクトのある情報</li> <li>2 自己表出の機会</li> <li>3 他者の体験を聞けること</li> <li>4 人との出会い</li> <li>5 貢献できた感覚</li> <li>6 受けた介入の役立ち感</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 多様性の理解</li> <li>2 活動の必要性の理解</li> <li>3 自己表現としての活動の楽しさ</li> <li>4 コミュニティからの好意的な反応</li> <li>5 長期的・全体的視座</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 効果の実感しにくさ</li> <li>2 やっていることの不十分感</li> <li>3 予防介入の限界感</li> <li>4 関わり方のライブ性の困難</li> <li>5 モチベーション維持の困難</li> <li>6 ピア活動であることに由来する問題</li> </ol>

表 5 基本属性(1)

	介入群(17名)		対照群(17名)	
	n	(%)	n	(%)
年齢階級				
18-19 歳	1	(5.9)	0	(0)
20 歳代	8	(47.1)	5	(29.4)
30 歳代	7	(41.2)	9	(52.9)
40 歳代	1	(5.9)	2	(11.8)
50 歳以上	0	(0)	1	(5.9)
応募地域				
横浜	9	(52.9)	10	(58.8)
大阪	8	(47.1)	7	(41.2)
抗体検査経験				
0 回	5	(29.4)	1	(5.9)
1-2 回	3	(17.6)	6	(35.3)
3-4 回	6	(35.3)	3	(17.6)
5-6 回	1	(5.9)	3	(17.6)
7-8 回	1	(5.9)	1	(5.9)
9-10 回	1	(5.9)	2	(11.8)
11 回以上	0	(0)	1	(5.9)
参加動機				
HIV 予防に関心	11	(64.7)	13	(76.5)
認知行動理論に関心	6	(35.3)	9	(52.9)
自分のセックスについて考えたい(話してみたい)	10	(58.8)	5	(29.4)
臨床心理士との面接に関心	2	(11.8)	6	(35.3)
その他*	3	(17.6)	3	(17.6)
コミュニティセンターへの接触状況				
行ったことがある	10	(58.8)	10	(58.8)
そこで HIV 情報に触れたことがある	7	(41.2)	6	(35.3)
コミュニティペーパーを読んだことがある	11	(64.7)	9	(52.9)
情報経路				
ツイッター	11	(64.7)	10	(58.8)
アプリの広告	3	(17.6)	2	(11.8)
dista・SHIP の HP	1	(5.9)	2	(11.8)
ゲイサイトでの紹介	1	(5.9)	0	(0)
大学サークルへのメール	1	(5.9)	0	(0)
知り合いから	1	(5.9)	1	(5.9)
ちらし	0	(0)	1	(5.9)

\*「その他」の内容 自分の性生活を見直したい1、知人に勧められて2、謝礼3

表 6 基本属性(2)

	得点幅	介入群の 平均値	対照群の 平均値
HIV 予防への関心度	1-5	4	4.13
基礎知識得点	0-10	8	8.29

表 7 自己効力感尺度得点の変化

	介入群		対照群		t値	自由度	有意確率(両側)
	変化量の平均	標準偏差	変化量の平均	標準偏差			
事前→事後	5.82	5.19	1.29	4.57	2.70	32	.011*
事前→事後2	6.71	4.06	1.59	3.34	4.02	32	.000***

\*  $p < .05$  、 \*\*  $p < .01$  、 \*\*\*  $p < .001$

表 8 認知尺度得点の変化

	介入群		対照群		t値	自由度	有意確率(両側)
	変化量の平均	標準偏差	変化量の平均	標準偏差			
事前→事後	4.76	5.30	0.76	2.77	2.76	24.16	.011*
事前→事後2	4.53	6.75	0.29	4.48	2.16	27.82	.04*

\*  $p < .05$  、 \*\*  $p < .01$  、 \*\*\*  $p < .001$

表 9 UAI 有り率の変化

直近 2ヶ月の UAI 有無	介入群	対照群	有意確率(標準得点 Z による検定、両側p値)	
事前→事後2				
有り→有り	5	7	比率の変化量の群間比較 <.003**	
有り→無し	8	1		
無し→有り	0	1		
無し→無し	3	7		
計	16	16		
事前の UAI 有り率	0.81	0.5		
事後 2 の UAI 有り率	0.31	0.5		
UAI 有り率の変化	-0.5	0		

\*\*  $p < .01$

表 10 インパクトがあった点

(複数回答)

	DVD	「ナマで」 チェック	自分の ST 傾向把握	セイファーに 転換する ST	コンドーム使用 提案方法	自分のセックス を話し合えた	その他*	インパクト なし
n	14	20	27	20	13	13	5	0
%	26.9	38.5	51.9	38.5	25	25	9.6	0

\* 「その他」の内容 調査結果 (MSM の性行動の実際) を知ったこと 4 ノンケの人に自分 (ゲイのこと) を話せたこと 1

表 11 プログラム評価(N=52)

	セイファーST* <sup>1</sup> しっくり度		実際のセックスでの セイファーセックス 想起		RT* <sup>2</sup> のしっくり度		実際のセックスで コンドーム使用提案		友人に勧めても いいと思うか	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
1 まったく	0(0)		0(0)		0(0)		1(1.9)		0(0)	
2 あまり	0(0)		1(1.9)		0(0)		0(0)		2(3.8)	
3 どちらとも	2(3.8)		5(9.6)		0(0)		5(9.8)		5(9.6)	
4 まあまあ	29(55.8)		24(46.2)		18(34.6)		22(42.3)		19(36.5)	
5 とても	21(40.4)		22(42.3)		33(63.5)		24(46.2)		26(50.0)	
無回答	0(0)		0(0)		1(1.9)		0(0)		0(0)	

\*<sup>1</sup> セルフトーク \*<sup>2</sup> リアルトーク(実際のコンドーム使用提案方法)

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

## 研究成果の刊行に関する一覧表

### 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体 編集者名	書籍名	出版社名	出版 地	出版 年	ページ
嶋根卓也、 日高庸晴	性的マイノリテ ィと薬物乱用・依 存の関係	和田清	依存と嗜癖—ど う理解し、どう 対処するか—	医学書院	東京	2013	115-126

### 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
日高庸晴	セクシュアリティについて	みまもるつながるう けとめるⅡ学校にお ける自殺リスクの認 知とその対応に関す る調査報告, 大阪教 育大学学校危機メン タルサポートセンタ ー		89-93	2011
日高庸晴、嶋根卓 也	【自己破壊的行動 多角的理解 のために】性的指向の理解と専 門職による支援の必要性	精神療法	38	350-35 6	2012
日高庸晴、星野慎 二	みんなと同じ恋愛ができない— セクシュアルマイノリティと思 春期	中高生のためのメン タル系サバイバルガ イド (松本俊彦=編)		49-54	2012
日高庸晴	性的マイノリティの生きづらさ	兵庫人権ジャーナル	2	6	2013
西村由実子、日高 庸晴	本の就労成人男性における HIV/AIDS 関連意識と行動に関 するインターネット調査	日本エイズ学会誌	15(3)	183-19 3	2013
嶋根卓也、日高庸 晴	薬物使用障害と性的マイノリテ ィ, HIV (物質使用障害とアディ クション臨床ハンドブック)	精神科治療学	28	289-29 3	2013
松高由佳、古谷野 淳子、桑野真澄、 橋本充代、本間隆 之、山崎浩司、横 山葉子、日高庸晴	Men who have Sex with Men (MSM) における HIV 感染予防行動を妨 げる認知に関する検討	日本エイズ学会誌	15(2)	134-14 0	2013

---

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業  
HIV 感染予防対策の個別施策層を対象にしたインターネットによるモニタリング調査・  
認知行動理論による予防介入と多職種対人援助職による支援体制構築に関する研究  
平成 23 年度～平成 25 年度 総合研究報告書

発行日 平成 26 年 3 月 31 日  
発行者 研究代表者 日高 庸晴（宝塚大学看護学部）  
発行所 研究班事務局  
〒530-0012 大阪市北区芝田 1-13-16  
宝塚大学看護学部日高研究室  
TEL : 06-6376-0853（代） E-mail : y-hidaka@takara-univ.ac.jp

---

本報告書に記載された論文および図表・データには著作権が発生しております。  
複写等の利用にはご留意ください。



